

＜祈禱会を豊かに＞

村上定幸

【教会の役員】十年近く前のことになりましたが、教会担当教師として任命を受けました。“今日は役員会”という日のことでしたが、殆んどの兄弟がそのまま会議に参加し、二人程の方が“私は役員でないから”ということでお帰りになったのを思い出します。会吏(かいり)、勸士(かんし)、部長から、代議員、教会学校教師など、出席者はみんななんかの資格と責任を持って連なっているということでした。説教というのは任命された牧師の仕事(教規をみますと、当時、草薙にはおいでになりませんが、信徒伝道者も説教を行うとあります)、奨励と司会をするのは、勸士という具合に教団の規則にはあります(規則の112条など)。しかし実際、思い出してみますと、規則に定めるように物事は進んでいないようでした。今の成人部会を提案したのは、教会の与える権威や、資格や奉仕を正しく理解したいという願いからのものでした。

【説教】今の週報を見て“かわってるな”と思われる方がいるかもしれません。説教する人がやたらに沢山出てきます。祈禱会にも、教会学校にも、信徒礼拝の時にも、“講壇の奉仕”をみな説教と書いてあることを不思議に思われるかもしれません。特に、教団内でも別の教会、更には教派が異なる教会生活をおくっている方は、そうかも知れません。いろいろな理解のもとに、いろいろな言葉が用いられています。宣教、証、メッセージ、勧め、それに教会学校などでは“おはなし”という記載もあります。

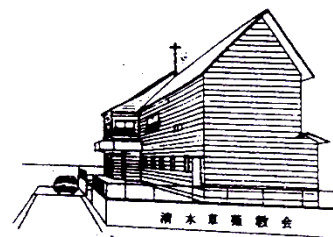
【ところが】規則には、説教と奨励は、“違うもの”として使い分けていますが、それでは、そのそれぞれは一体なんであるのか、教憲や教規から説明しようとすると、ちょっと無理のようで、何か別の教会論的な理解に頼っているようです。この違いを規則から読み取ろうとしても、ちょっと無理があるようです。

【そこで】そこで、全てを説教にすることを提案し、了解され、今に至っているというわけです。みんな“説教と呼ぶんですか”という質問を誰かにされたら、その質問をした方は、いろいろと考えておられる方なのです。

【祈禱会】草薙には、水曜日(週のなかば)エステル一会、聖書研究祈禱会があります。ここでも、交代で“説教”があります。牧師も信徒もみな説教をします。沢山の教会で祈禱会や婦人会、それに組会という名前で水曜日か木曜日に集まりますが、恵みの時となるように、みんながその進め方を求めているのは素晴らしいことです。中身は、一つの聖書を取り上げ、読み進めてゆくやり方や、“祈りのリクエストと祈りの時とする”、交代で証の時にする、デヴォーションのためのテキストを用いて学びを進める、時には、聖書語学の学びや、問答書や神学の書物を取り上げられることもあるようです。けれども恵みの時とされ、新しく教会を訪ねる方々をも含めて、用いられることを願います。草薙で、全て説教ということにされているのには、こんなことがあったのです。

週報

2011年 6月 5日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042